

(様式 3)

## 公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金 成果報告書

代表者氏名	五十嵐 靖博	所属	山野美容芸術短期大学						
研究会等名称	批判心理学研究会								
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>会員</td> <td>36名 (うち認定心理士</td> <td>3名)</td> </tr> <tr> <td>非会員</td> <td>56名 (うち認定心理士</td> <td>0名)</td> </tr> </table> <p>2) 集会等の目的・成果等  下記の4つのシンポジウムを主催もしくは共催した。  ①シンポジウム「対テロ戦争における『心理学的拷問』を考える：ホフマン報告の後の心理学」  開催日：3月11日(土)  会場：和光大学 A 棟 4 階, 第 2 会議室  話題提供：五十嵐 靖博 (山野美容芸術短期大学) 「理論心理学・批判心理学立場からみた『心理学的拷問』とアメリカ心理学」  指定討論：いとう たけひこ (和光大学)  指定討論：田辺 肇 (静岡大学)  実施内容と成果：  9.11 同時多発テロの後，対テロ戦争において CIA や国防総省の軍事心理学者が「強化尋問技法」を開発し過酷尋問を行ったことが報道によって明らかになった 2004 年以來，「心理学的拷問」は学界の内外で激しい論争を巻き起こしてきた。本シンポジウムでは APA の PENS タスクフォースやアメリカ上院インテリジェンス委員会のファインシュタイン報告，APA 独立調査委員会によるホフマン報告，APA 代議員会による尋問への関与を禁止する決議などについての話題提供を踏まえ，心理学的拷問について討議した。  ホフマン報告書は，1). 拷問に反対する人々が 10 年前から指摘してきた国防総省と APA の協働関係が概ね事実だったこと，2). 9.11 後に APA がとった行動の動機はおもに，対テロ戦争を担う国防総省の要請に応じることや，社会における心理学のよいイメージを保つこと，心理学の職業的發展をめざすことにあり，拷問の防止や拷問の被害者の救済が考慮されなかったこと，3). 国防・情報当局と APA 指導部が結託して，拷問を含む過酷な尋問を法的に正当化した米政府の政策に合わせて APA の倫理指針を改定したこと，4). もしアメリカの心理学者が加担しなければ，国防・情報当局が設営した尋問施設などで心理学者が悪を為す機会は低減した，などを認定した。これらの論点を踏まえ，心理学の倫理や心理学者に影響を与えている諸要因を考察した。</p> <p>②日本発達心理学会第 28 回大会におけるシンポジウム「人生構築理論 (白井, 2011) の検討：心理学は意味世界にどう接近するか」  開催日：3月25日(土)  企画：日本心理学会批判心理学研究会  企画：五十嵐靖博 (山野美容芸術短期大学)  話題提供：白井利明 (大阪教育大学)</p>			会員	36名 (うち認定心理士	3名)	非会員	56名 (うち認定心理士	0名)
会員	36名 (うち認定心理士	3名)							
非会員	56名 (うち認定心理士	0名)							

指定討論：百合草禎二（常葉大学）  
指定討論：いとうたけひこ（和光大学）  
指定討論：小島康次（北海学園大学）  
司会：伊田勝憲（静岡大学）

実施内容と成果：

「心理学は意味世界をどう捉えることができるだろうか」という心理学の根幹に関わる問題を討議した。話題提供者は、青年心理学の分野で変容確認法（白井，2008）を提唱し、また27年にわたる長期縦断研究（Shirai，2016）で量的・質的縦断データを照合し、人生の意味づけの動的メカニズムを明らかにしてきた。話題提供では人生構築理論とは何かを述べ、それに至る経緯を説明した。そして、人生の危機に対する脊髄損傷者の語りの事例研究をした。最後に、今後の課題を述べた。

人生構築理論（白井，2011）は、人生の危機をどう乗り越えていくのかを回想法で明らかにするものである。ここでは、人生の転機の回想の手記を求め、前方視再構成法で分析する。前方視再構成法とは、手記が現在から振り返って人生の転機が後付けで構成されているものとみなし、手記の時点で未来に進んでいく視点から再構成する手法である。人生の転機は後で振り返ることができるものであるが（大久保，2001）、話題提供者は、現在の視点から過去は塗り替えられるものではなく、過去はかわらず、積み重なっていくだけであり、過去の意味づけも変わるのではなく、積み重なっていくのであるとした。

指定討論では、1. 伝統的人間観の行きづまりから、「自己」観が揺らいでおり、①二元論的世界の問題、②世界についての個人の知識の問題、③自分の心を正しく知るといった問題が出ている、2. 話題提供者は実証的な研究と質的研究を統合し、意味世界に迫ろうとしているが、疑問点もあると指摘された。

成果として、意味（づけられた）世界は1つの統合的な（首尾一貫した）ものでなければならないのか、それともそうしたものを拒否することで成り立つものではないのか、という論点が明確になったことが特記される。具体的には、①過去への意味づけがなされる時、それはある視点から首尾一貫的に作られるものなのか、矛盾やズレをそのまま内包するものなのか、②アイデンティティは個人がつくるものなのか、それとも押しつけられたものを拒否するものか、という研究主題がシンポジウムを通して浮かび上がってきた。

2017年度にはこれらをさらに探究する。

③ICP2016における招待シンポジウム Critical Psychology around the World (I): Theoretical psychology against the mainstream and local contexts for a global psychology

開催日：Wednesday, July 27.

企画：Igarashi, Yasuhiro (Japan) & Stam, Henderikus J (Canada)

話題提供：Possibilities of critical psychologies and reflexivity: A view of a Japanese theoretical psychologist. Igarashi, Yasuhiro (Japan)

話題提供：What is critical psychology a psychology of? Stam, Henderikus J (Canada)

話題提供：Critical psychology in post-colonial (?) Hong Kong. Fu, Wai (Hong Kong)

話題提供：Sexual Minorities in Japan and the role of Psychologist. Tsuge, Michiko (Japan)

指定討論：Teo, Thomas (Canada)

実施内容と成果：

ICP 横浜大会において20世紀末以来、世界の心理学の新しい潮流として注目を集めている批判心理学に関するシンポジウムを開催した。日本とカナダと香港の心理学者がそれぞれ、自分が行っている研究と自分が活動している国・地域の研究動向を批判心理学の視点から報告した。

指定討論者は欧州で教育を受けカナダで活動するアジア系批判心理学者の視点から、批判心理学の可能性を論じた。シンポジウムを通して国際的な、特に東アジアの視点からの新たな研究の方向性が提示された。

④ICP2016 における招待シンポジウム History of psychology and critical psychology (I): Exploration of critical historiography of psychology

開催日 : Wednesday, July 27

企画 Long, Wahbie (Republic of South Africa) & Igarashi, Yasuhiro (Japan)

話題提供 : History of psychology and psychologization: A view of a Japanese critical psychologist. Igarashi, Yasuhiro (Japan)

話題提供 : Feminism and Psychology: A Short History of the Future. Marecek, Jeanne (United States of America)

話題提供 : Uses of psychological measurement in Brazil. Jacó-vilela, Ana Maria J (Brazil)

指定討論 : Long, Wahbie (Republic of South Africa)

実施内容と成果 :

ICP 横浜大会において心理学史研究と批判心理学に関するシンポジウムを開催した。特に心理学史研究のヒストリオグラフィーに焦点をおき、討議した。初めに日本の心理学史の視点から心理学化の意義と問題点が報告された。続いて北米のフェミニスト心理学者の立場から、心理学とフェミニズムの関係とフェミニズムに根差した研究や心理臨床実践、社会的実践、心理学教育の実際と将来の構想が提示された。続いて南米の心理学史の展開と社会との関係が心理検査の導入などの具体例とともに説明された。

シンポジウムの成果として、現代世界における心理学の多様さが明らかになり、目の前にある心理学を理解するうえで歴史的研究が必要とされていることが分かった。

## 研究集会参加者リスト

〈研究会名〉				
批判心理学研究会				
研究集会開催日：2016年 7月 27日(水)				
	氏名	所属	会員	認定 心理士
1	五十嵐靖博	山野美容芸術短期大学	○	
2	柘植道子	一橋大学	○	
3	Stam, Henderikus	University of Calgary		
4	Fu, Wai	香港樹仁大学		
5	Teo, Thomas	York University		
6	その他, 30名の参加者			
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				

## 研究集会参加者リスト

〈研究会名〉				
批判心理学研究会				
研究集会開催日： 年 7月 27日(水)				
	氏名	所属	会員	認定 心理士
1	五十嵐靖博	山野美容芸術短期大学	○	
2	田辺肇	静岡大学大学院人文社会科学研究科	○	
3	Marecek, Jeanne	Swarthmore College		
4	Long, Wahbie	University of Cape Town		
5	Teo, Thomas	York University		
7	その他, 40名の参加者			
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				

## 研究集会参加者リスト

〈研究会名〉				
批判心理学研究会				
研究集会開催日： 2017年 3 月 11日				
	氏名	所属	会員	認定心理士
1	五十嵐靖博	山野美容芸術短期大学	○	
2	伊藤武彦	和光大学現代人間学部	○	
3	田辺肇	静岡大学大学院人文社会科学研究科	○	
4	その他, 7名の参加者 (うち1名は認定心理士)			
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				

## 研究集会参加者リスト

〈研究会名〉				
批判心理学研究会				
研究集会開催日： 2107年 3月 25日(土)				
	氏名	所属	会員	認定 心理士
1	白井利明	大阪教育大学教育学部	○	
2	百合草禎二	富士常葉大学名誉教授	○	
3	小島康次	北海学園大学経営学部	○	
4	伊田勝憲	静岡大学教育学部	○	
5	伊藤武彦	和光大学現代人間学部	○	
6	その他, 20名の参加者.			
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				

(様式5)

2017年 3月 30日

日本心理学会研究会 2016年度会計報告書

研究会名称 批判心理学研究会

研究会番号 研 16009

助成金額 ¥30,000

年月日	項目	金額
2016年11月5日	発達心理学会大会における自主シンポジウム企画料	¥20,000
2016年12月16日	印刷費 (シンポジウム資料制作印刷用トナー代)	¥4,400
2016年3月10日	印刷費 (シンポジウム資料制作印刷代)	¥6,000
支出合計		¥30,400